

10年前の2010年ごろの世の中は、
経済的には、
リーマンショックから立ち直り始めていて、
もっと身近なところでは、
iPhone 4の時代で、
まだガラケーが幅を利かしていました。

その約10年前の、
21世紀になったころには、
考えてみなかったことが起こっていたのです。

では、現在から10年後は、
どのような時代になっているのでしょうか！？

想像のつかないことが起こることは、
間違いないでしょう。

しかし、
必ず起こること予想のできる
3つのことがあります。

そこで今回は、
10年後にどんな時代を迎えても良いように、
今から準備しておけることを考えてみます。

10年後に間違いなく起こること3つは

早速、その3つです。

- (1) 今より10歳、歳を取る
- (2) 住宅や家財などの所有物の劣化
- (3) 貨幣からキャッシュレス社会へ

なんだと思う方もあるでしょう。
また、確かに必ず起こることだ
とだけ思っていた方もいるでしょう。

少なくともこの3つは、
どのような暮らしをしていても、
世の中がどのように動いていても、
必ず起こると言ってもよいでしょう。

それでは、ひとつずつ見ていながら、

今からできる対応策を考えてみます。

(1) 今より10歳、歳を取る

毎年、誰しも平等に1歳ずつ歳を取ります。

この10年間で、
定年退職をして、
収入が減少する家庭では、
生活の環境が変わります。

つまり、家計収支を考えると、
収入は、年金のみであれば現役時代より減ります。

しかし、支出は、
確かに食費などの衣食の面での支出は、
年とともに減少するかもしれませんが、
反対に歳を取るとともに体調を崩して、
医療機関にかかる機会も増え、
それに伴い、医療費や介護の費用の支出が、
増えることが予想されます。

また、現行の医療費の自己負担額割合は、
収入によって違いはありますが、
70歳未満は3割、
74歳未満が原則2割、
75歳以上が原則1割となっています。
しかし、今後この負担割合が、
高くなっていくことも予想されます。

従って、家計の支出は、
退職のころよりむしろ増えることは、
目に見えていることであり、
現役のうちから長期間に渡り、
定期的に貯蓄をするなど、
その対策は必要です。

また、よく言われていることですが、
日頃から、身体が弱らないように、
ご自身に適した、
運動をするなどの対策も必要でしょう。

(2) 住宅や家財などの所有物の劣化

10年もすれば、
何もかも今より劣化していきます。

住宅で考えてみると、
悪くなったところの修繕が必要になります。

大規模な修繕をしようとする、
数百万円規模にもなりかねません。

また、建て替えが必要な住宅も出てきます。

通常建物は、
雨漏りなどが起こっても、
すぐに住めないほどのひどい状況にはなりません。

言い換えれば、
もし建て替えが必要な家に住んでいれば、
あと何年くらいは住める
とその目安の予測はつくものです。

従って、10年後に限らず、
今後住めなくなるような兆候があれば、
その対策をしておくことでしょう。

このことは、家財にも言えることです。
冷蔵庫やエアコンなどに、

また自家用車にも言えることです。

(3) 貨幣からキャッシュレス社会へ

キャッシュレス時代への移行は、
お気づきのよう既に始まっています。

10年後には、
紙幣も硬貨も、
まったく使わない、
また目にすることが珍しい、
世の中になっているかもしれません。

10年後世界を想像すると、
例えば、スマートフォンで、
すべて決済するようになる、
とも言われています。

しかし、10年後に
スマートフォンはさらに進化して、
指紋や声、顔など体の一部で認証することは、
当たり前となり、
いや、それ以上に進化しているかもしれません。

また通貨も、
世界共通の通貨が開発されまた流通して、
日本円、米国ドル、中国元といった、
各国の通貨の呼び名も、
過去の懐かしいものとなっているかもしれません。

誰しも現状維持の方が良く、
ことお金に関わることでの変化は、
望まない方も多くいるでしょう。

しかし、今後生活に関わることで、
どのような変化が起こるのかはわかりません。

少なくとも、歳を取った人が対応するには、
以前 ATM が普及したときのような、
最初のうちは厄介な変化かもしれません。
しかし、対応しないと生活に支障が出かねません。

その変化にストレスなく対応するためには、
今まで以上に近い将来に、
そんなことが起こるのかと思うようなことも、
敏感に情報をキャッチしていくことが必要です。

ただ、歳を取ってから、
その情報にご自身のみで対応するのには、
無理があるかもしれません。

では、どうすればよいのか？

一番手っ取り早いのは、
身内に教えてもらうことです。

子どもさんがいれば、

開業 17 年目

1958 年 名古屋市生まれ、大学（東海大学卒業）以外は、名古屋で生活をする。

1982 年～2001 年 旅行会社に勤務。業務で世界各地を廻っていた時、日本の方と他国の方々のお金との付き合い方の違いを感じていた。そんな時渡米した折に、初めてファイナンシャルプランナーの存在を知り、日本でもこの業務の必要性を認識する。

2003 年 牧野 FP 事務所を創業。
2018 年から牧野 F P 事務所合同会社を設立。

これまでに、延べ 900 件以上の様々な相談に対応。

現在は、相談者へのプランニングの助言と提案を主な業務とし、

相談者に、安心できる生活が送れるように、

丁寧な業務を心がけている。

<保有資格>

- ・ NPO 法人日本ファイナンシャルプランナーズ（FP）協会 CFP（R）認定者
- ・ 1 級ファイナンシャル・プランニング技能士（資産設計提案業務）
- ・ 福祉住環境コーディネーター
- ・ 総合旅行業務取扱管理者 など

<取材協力>

メ～テレ（名古屋テレビ）「UP！」

<出版>

「銀行も不動産屋も絶対教えてくれない！
頭金ゼロでムリなく家を買う方法」河出書房新社

<監修>

「空き家」に困ったら最初に読む本」河出書房新社

現在、相談を受けている方は、名古屋市内はもとより
愛知、岐阜、三重県、
ご紹介をいただいて、首都圏や関西にも
足を延ばす機会が増えてきました。

「人生の添乗員 (R)」は、どこまでも行きます。

他人を気にすることなく、
相談者ご自身にとって
有益な提案を心がけています。

■編集後記

前職で、海外旅行の添乗をしたとき、

「世界にはこんなところもあるんだ、
思い切って旅行に来てよかった！」

と、感動していた方の笑顔が忘れられません。

コロナ禍が収まり、
安全に海外旅行に再び行けるようになると、
旅先でこんな感動を持たれる方も、
またたくさん出てくることでしょう。

どのような世の中になっても、
ご自身の人生を楽しむために、

お金の準備はお忘れなく！

【人生の添乗員 (R)】からのワンポイントメッセージ

来週もご愛読のほど、
よろしく願い申し上げます。

「人生の添乗員」「人生の行程表」は牧野寿和の登録商標です

■ 【人生の添乗員 (R)】からのワンポイントメッセージ

発行：

牧野FP事務所合同会社 代表社員 牧野寿和
〒467-0823 名古屋市瑞穂区津賀田町2-86

■登録・解除は、ご自身でお願いいたします。
こちらから出来ます。

<http://www.mag2.com/m/0001575058.html>

■本メルマガに関するご意見・お問い合わせはこちらまで
お願いいたします

E-MAIL : makino.fp@beach.ocn.ne.jp

牧野FP事務所合同会社 公式サイト：<https://www.makino-fp.com>

■記事内容に関してのトラブル等について当方では一切責任を負いかねます。
ご自身の責任でご判断下さい。
